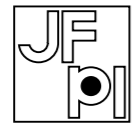


日本印刷産業連合会のご案内

社会責任報告書

Social Responsibility Report 2020/2021



一般社団法人 日本印刷産業連合会
Japan Federation of Printing Industries
〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8 日本印刷会館内
TEL 03-3553-6051 FAX 03-3553-6079
<http://www.jfpi.or.jp/>



GREEN PRINTING JFPI
P-B10029
この印刷製品は、環境に配慮した
資材と工場で製造されています。

目次 <CONTENTS>

トップメッセージ	1
日本印刷産業連合会の概要	2
日本印刷産業連合会の社会的責任	4
日本印刷産業連合会が重要視する3つのテーマ	6
1 新たな価値創出に向けた活動	8
・1-1「じゃぱにうむ」印刷産業の地方創生事業促進	
・1-2知的財産保護への取り組み	
・1-3印刷技術の進展と次世代人材育成	
2 適正で誠実な企業行動の推進	12
・2-1情報セキュリティと個人情報保護	
・2-2多様性の尊重	
3 地球環境への高い配慮	16
・3-1グリーンプリンティング(GP)認定制度	
・3-2環境自主行動計画に基づく活動	
・3-3印刷産業環境優良工場表彰	
・3-4地球環境への高い配慮	
4 社会に向けた情報発信の強化	24
・4-1国際交流	
・4-2印刷製品のコンクールの主催	
・4-3印刷産業の社会貢献活動	
・4-4日本印刷産業連合会が発行する刊行物	
社会に対する情報発信 日本印刷会館	32
日本印刷産業連合会 正会員	33

編集方針

本報告書は2016年に印刷産業の業界団体を代表して初めて刊行された社会責任報告書の系譜であり、印刷産業に関わりのあるすべてのステークホルダーに対し、業界全体のSR(社会的責任)をご理解いただくことを目的とし、印刷業界として2018年度および2019年度に取り組んだ活動を一般社団法人日本印刷産業連合会(以下、日本印刷産業連合会)が報告書として取りまとめたものです。

また、本報告書は、国連グローバルコンパクトへの報告ツールとしての役割も担っています。

報告期間

原則として2018年4月1日から2020年3月31日までの活動を中心に、必要に応じて同期間の前後の活動内容も掲載しています。

報告範囲

日本印刷産業連合会の活動および当連合会を構成する正会員の組織・団体(各組織・団体に加盟している各企業)の活動

- 印刷工業会
- 全日本印刷工業組合連合会
- 日本フォーム印刷工業連合会
- 一般社団法人日本グラフィックサービス工業会
- 全日本製本工業組合連合会
- 日本グラフィックコミュニケーションズ工業組合連合会

- 全日本シール印刷協同組合連合会
- 全国グラビア協同組合連合会
- 全日本スクリーン・デジタル印刷協同組合連合会
- 全日本光沢化工紙協同組合連合会

対象読者

印刷産業各社、印刷業界の得意先企業、取引先(協会会社・仕入先)、一般消費者、行政、地域社会など、幅広いステークホルダーを対象としています。

発行日

2020年9月(次回発行予定:2022年9月予定)

本報告書に対するお問い合わせ

一般社団法人 日本印刷産業連合会
〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8 日本印刷会館内
TEL : 03-3553-6051 FAX : 03-3553-6079
info@jipi.or.jp

日本印刷産業連合会概要

名称：一般社団法人 日本印刷産業連合会
英文名：JAPAN FEDERATION OF PRINTING INDUSTRIES
略称：日印産連(JFPI)
設立：1985年6月3日

TOP MESSAGE

SDGsを指針とした活動により、社会的責任を果たしていきます

一般社団法人
日本印刷産業連合会
会長

藤森康彰



印刷は、古くから人類の歴史と共にあり、文化の担い手として人々の生活に潤いを与えてきました。そして現在、印刷産業は、コミュニケーションの担い手としてお客様企業と共に、サプライチェーンの一角を成して、人々の豊かな暮らしを支えています。

印刷産業を取り巻く環境は、デジタル技術の進歩により大きく変わりました。しかし、印刷の社会に対する貢献は変わるものではありません。

日本印刷産業連合会では、設立30年に当たる2015年に、新たな事業戦略として「グランドデザイン」を策定しました。印刷産業がこれまで以上に社会との関わりを深め、「社会的責任」を果たしていく決意を掲げたもので、同年に国連で採択されたSDGsを指針として活動しています。

具体的には、印刷事業を通じた「新たな価値創出」「事業活動における誠実な行動」「地球環境に配慮した生産活動」「広く社会に向けた情報発信」に取り組むことを決めました。特に、環境と情報セキュリティにおいては、グリーンプリンティングとプライバシーマークの2つの認定事業を通じた啓発と普及を推進しています。

本報告書は、そうした印刷産業の取り組みを広く皆様方に知っていただくために発行するもので、本号が第4号となります。

日本印刷産業連合会を構成する10団体から選出された委員からなる委員会の活動報告や、主催する文化事業や啓発セミナーをはじめ、内閣府の「地方創生SDGs産官連携プラットフォーム」事業に参画して地方創生に貢献する印刷会社を広く紹介する取り組みや、女性活躍推進への取り組み、毎年、経済産業省の産業構造審議会で行っている低炭素社会実行計画の進捗報告の様子、環境配慮に優れた企業を表彰する環境優良工場表彰制度なども紹介しています。

今日、世界を震撼させる感染症の蔓延や、気候変動による風水害が社会や経済に大きな打撃を与えています。人々の暮らしや産業と広く深く関わる印刷産業は正確な情報や必要な製品を安定的にお届けすることで、人々の生活を支える責任を果たしていきたいと考えております。ご一読いただき、印刷産業へのご理解を深める一助としていただければ幸いです。

日本印刷産業連合会の概要

日本印刷産業連合会は、印刷産業10団体が結集して1985年に設立されました。経営環境が大きく変化する中、社会からの期待に応え、価値創造力を高めるため、幅広い領域で活動を推進しています。

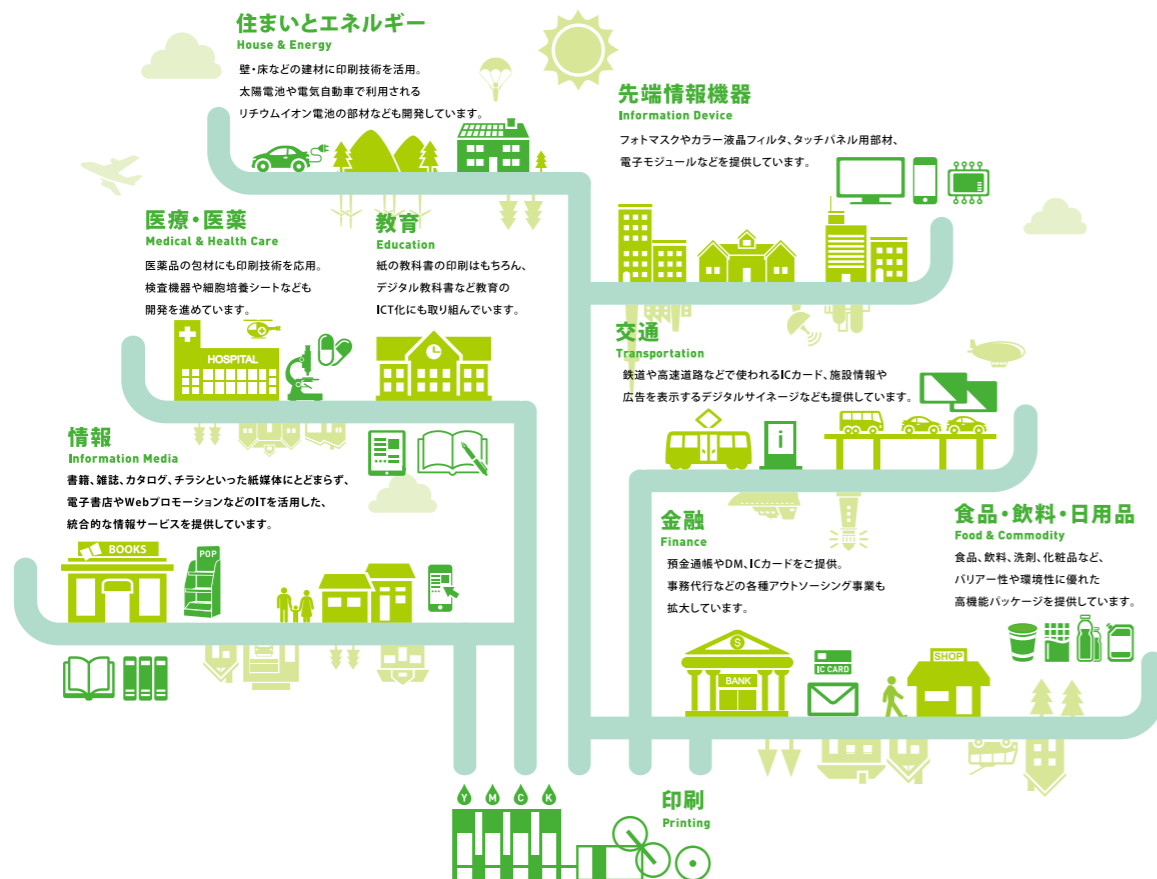
近代日本の印刷産業の成り立ちから現代における印刷産業と社会の関わり

近代活版印刷は、15世紀にグーテンベルクが発明しました。日本では16世紀にキリシタン大名が派遣した天正遣欧使節がヨーロッパから印刷機を持ち帰り、キリスト教関連の書物を中心に印刷物を制作しましたが、その後、キリシタン禁止令により弾圧が高まり、それとともに国外に印刷機も持ち出されてしまいました。それから250年ほど後、幕末に開国が進む中で幕府の通詞であった本木昌造が活版印刷機に使う和文活字の製造に成功し、日本の近代印刷が始まりました。明治維新、そしてその後の文明開化、日本の近代化において、新しい技術・文明・文化を伝えるという書物の果たした役割は極めて大きな意味がありますが、印刷はまさにそうした過程を支え続けてきたのです。

そこからおよそ80年にわたり、印刷は主に出版関連を中心に発展していききましたが、一部では広告宣伝物や紙器、そして債券などの分野にも広がりを見せていきました。戦後になって、印刷技術の多方面への活用が本格化します。例え

ば、昭和30年代になると軟包装やプラスチックパッケージ、住宅建材としての壁紙や家具の表面材などの分野にも進出します。戦後復興期に求められた新しい食文化、住宅環境などをこれらの製品がしっかりと支えていきました。さらに、金融関連を中心に各種カードや事務のコンピュータ化に伴いビジネスフォームなどへ、そしてテレビの中間部材や半導体の製造部品などエレクトロニクス製品へも事業を展開しました。情報のデジタル化にもいち早く取り組み、電子メディア・電子書籍などへの展開を進め、それはインターネットを活用した各種のコンテンツ制作やメディア制作にもつながっていきます。

こうしてみると、印刷は目に見える形のあるものと、ふだんは目につかないような部品、さらには形のないプロセスソリューションのようなものまでビジネスを、そして人々の暮らしをより豊かなものに、ひいては社会の持続可能な発展の基盤を支えています。



日本印刷産業連合会の概要と組織体制

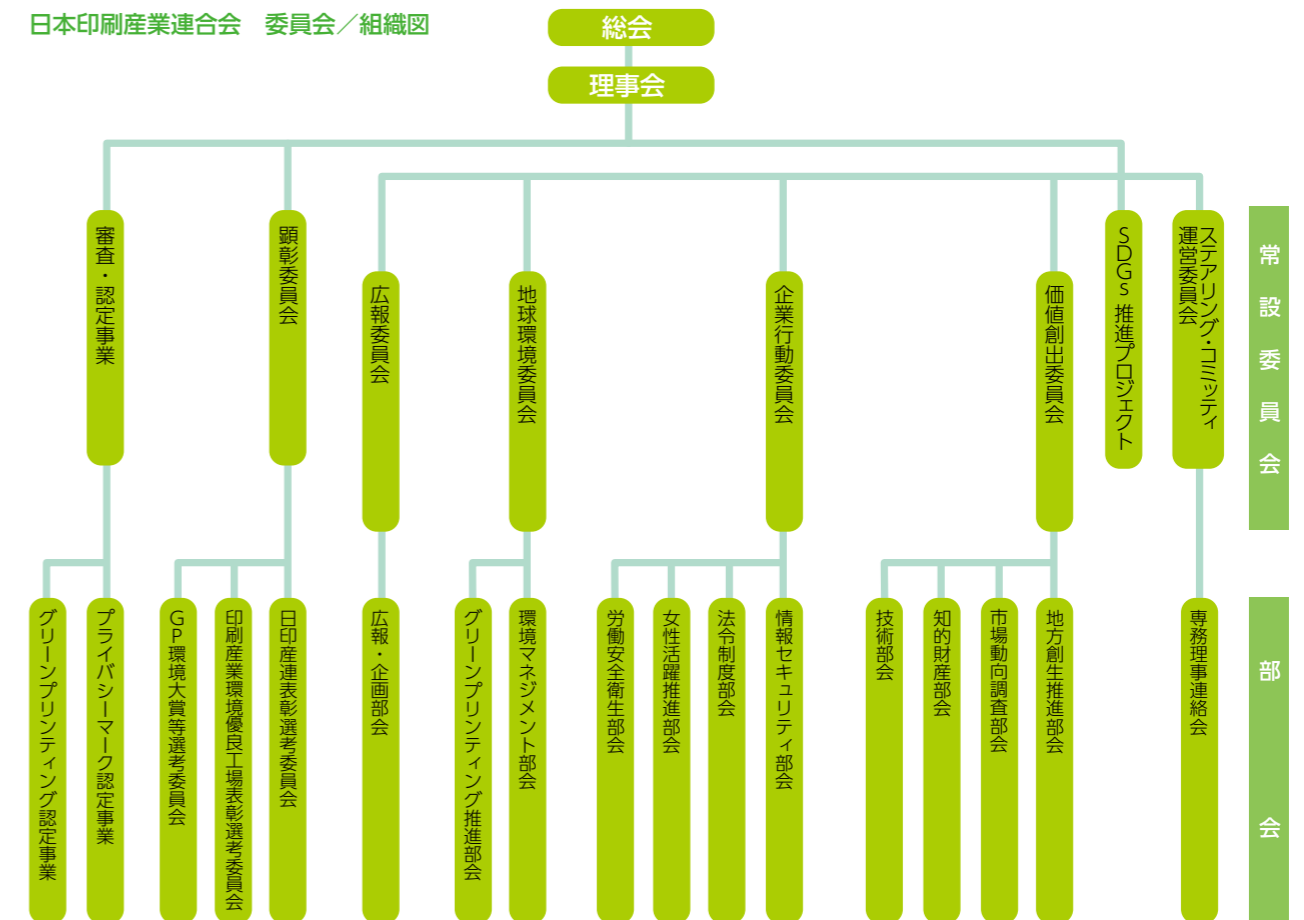
日本印刷産業連合会は、1985年に印刷産業10団体が結集し、印刷産業の一層の発展と生活文化の向上に寄与することを目的に設立されました。

2015年に設立30周年を迎えましたが、設立時と経営環境も大きく変わってきていることを踏まえて、これからの印刷産業およびその業界団体のあるべき姿を「グランドデザイン」として取りまとめて発表しました。グランドデザインの骨子は、印刷産業がさらに社会との関わりを深め、社会的責任をより一層果たしていくことを目指し、団体としての活動をその目的に集中させることです。具体的には、印刷産業の価値創造力を高めること、社会の期待に応え誠実に行動する産業になるこ

と、地球環境への高い配慮を前提とした事業活動、さらには、社会に対して印刷産業への理解を深めていただくための積極的な情報発信などを通じて、これまで以上に信頼される産業を目指していきます。

そして、グランドデザインの一環として、印刷産業に携わるすべての者の役割をミッション・ステートメントとしてまとめた他、世界の社会的責任に関するスタンダードともいえる国連グローバル・コンパクト▶P5参照に対して、日本の業界団体として初めて賛同表明をしています。

日本印刷産業連合会 委員会／組織図



日本印刷産業連合会が発表したブランドデザイン

1. 日印産連は、印刷産業の社会的責任(SR)遂行に寄与するための活動を事業目的とする組織にする。
2. 印刷産業の果たすべき役割をわかりやすく表す「ミッション・ステートメント」を新たに制定する。
3. 日印産連は、印刷産業のSR遂行に寄与するという事業目的達成のためにあらゆる資源を集中させる。このため従来の活動テーマ、組織・予算等を抜本的に見直し、再編成し、併せて、一般社会へのコミュニケーションを強化し、印刷産業への理解・共感と、信頼感の醸成に努める。
4. 業界団体として国連の提唱する国連グローバル・コンパクト(UN Global Compact)へ賛同表明し、SRの取り組みを業界上げて進める象徴とする。

ミッション・ステートメント

われわれ印刷産業に携わるものは、印刷事業を通じて常に新しい価値創造に邁進し、豊かな情報文化、生活文化を実現することで持続可能な社会の発展に貢献する。そのため、われわれは常に、「印刷」の可能性を見つめなおし、新しい事業領域の拡大、奥行きを深め、そして新しい技術開発に挑戦し続ける。

- ① **新たな価値創造に向けた活動**
印刷産業の価値創造力を高めるための取り組み
- ② **適正で誠実な企業行動の推進**
印刷産業が社会から望まれる行動がとれる産業であり続けるための取り組み
- ③ **地球環境への高い配慮**
印刷産業が地球環境保全に向けて高い意識と実績をあげていくための取り組み
- ④ **社会に向けた情報発信の強化**
印刷産業が社会から理解され、信頼される産業となるための取り組み

印刷産業全体が取り組むべきSDGsの重要課題

- 地球環境への配慮
- 労働安全衛生の確保
- ダイバーシティ経営、人権及び多様性の尊重
- 情報セキュリティへの対応
- 地方創生への貢献
- 知的財産の保護と活用

国連グローバル・コンパクトの10原則

1999年に開催された世界経済フォーラム年次総会において当時の国連事務総長コフィー・アナン氏が提唱した、企業や組織が社会の良き一員として行動するよう促し、持続可能な成長を目指すための国際的な枠組み。参加する各国の企業・組織に対し、人権、労働、環境、腐敗防止の4分野における10の原則を指示し、実践することを求めている。



- 【人権】**企業は、
原則 1: 国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、
原則 2: 自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。
- 【労働】**企業は、
原則 3: 結社の自由と団体交渉の実効的な承認を支持し、
原則 4: あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、
原則 5: 児童労働の実効的な廃止を支持し、
原則 6: 雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。
- 【環境】**企業は、
原則 7: 環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、
原則 8: 環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、
原則 9: 環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。
- 【腐敗防止】**企業は、
原則 10: 強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。

SDGs (Sustainable Development Goals)

2015年9月に開催された国連サミットで150を超える加盟国の参加のもと、全会一致で採択された「持続可能な開発のためのアジェンダ」に掲げられた「持続可能な開発目標」。貧困・飢餓、環境・水問題、ジェンダーの平等、イノベーションと経済成長等、途上国だけでなく、先進国も取り組むべき17のゴール、169のターゲットからなる2030年までに達成を目指す目標。



日本印刷産業連合会が重要視する3つのテーマ

- **地方創生事業促進**
成功事例の共有による印刷産業の地方創生・地域活性化に関わる事業の促進
- **女性活躍推進**
印刷産業に働く女性のネットワークを通して、よりレジリエントな業界を実現
- **地球環境への配慮**
低炭素社会の実現、循環型社会の形成、VOC排出抑制・海洋プラスチックごみ問題解決

※レジリエンス(名詞形)=ストレスに直面した際、受け止め、跳ね返したり、適応したりする力

日本印刷産業連合会が重要視する3つのテーマ

2015年に国連でSDGs（持続可能な開発目標）が採択され「地球上の誰一人として取り残さない」ことが誓われました。日印産連ではSDGsに則して業界団体として最重要視して遂行すべき3つのテーマを定めました。

2019年度、日印産連は国連の提唱するSDGsの考え方を基本としテーマを定め、SDGs推進プロジェクトと常設委員会が連携し活動を開始しました。「地方創生事業

促進」「女性活躍推進」「地球環境への配慮」が主要なテーマであり、それぞれのSDGsの目標とターゲットは次のとおりです。



SDGs(持続可能な開発目標)

重要視する3つのテーマ

目標	ターゲット	重要視する3つのテーマ		
		地方創生	女性活躍	地球環境
3. すべての人に健康と福祉を	3.9			●
	5.1		●	
5. ジェンダー平等を表現しよう	5.5		●	
	6.3			●
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	7.2			●
	7.3			●
8. 働きがいも経済成長も	8.3	●		
	8.4			●
	8.5	●	●	
	8.9	●		
10. 人や国の不平等をなくそう	10.3		●	

重要視する3つのテーマ

目標	ターゲット	重要視する3つのテーマ		
		地方創生	女性活躍	地球環境
11. 住み続けられるまちづくりを	11.4	●		
	11.6	●		●
	11.a	●		
12. つくる責任 つかう責任	12.4			●
	12.5			●
	12.7			●
	12.b	●		
13. 気候変動に具体的な対策を	13.3			●
14. 海の豊かさを守ろう	14.1			●
15. 陸の豊かさを守ろう	15.1			●
	15.2			●
17. パートナーシップで目標を達成しよう	17.17	●	●	●

※富栄養化 = 栄養分を含む排水が流れ込むことによってプランクトンが増殖して水質が汚濁すること

1 新たな価値創出に向けた活動

印刷産業は、印刷を通じたもの作りとともに、知的財産や情報を社会で共有できる価値へ高め、知の流通を促進させることで、新しい価値の創出を担っていきます。

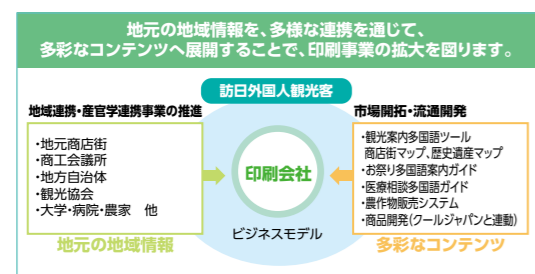


1-1▶「じゃぱにうむ」印刷産業の地方創生事業促進

日本印刷産業連合会では、全国の印刷会社が取り組む地方創生・地域活性化に関わる事業の事例などを紹介しながら、印刷産業の事業領域の拡大を目指した情報共有を図る目的で、情報交流基盤サイト「じゃぱにうむ」(Japan Printing Alliance News Columns)を立ち上げています。



Web https://www.jpfi.or.jp/topics_detail6?id=184



また、2019年度からは内閣府地方創生推進事務局が主催する「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」に参画し、「じゃぱにうむ」に関わる様々な情報を発信しています。

「じゃぱにうむ2020—印刷産業の地方創生事業事例発表会」の開催

2020年2月に「じゃぱにうむ2020—印刷産業の地方創生事業事例発表会」を開催しました。このイベントは、各地の印刷会社が取り組む地方創生・地域活性化に関わる事業の成功事例を共有することで、全国各地の印刷会社が同様の事業を推進し、その創出を加速していくことを目的に、昨年度に引き続き開催されました。

2月10日、約100名の聴講者を集め日本印刷会館で開催された事例発表会では、冒頭に日本印刷産業連合会価値創出委員会の委員長滝澤光正氏(滝澤新聞印刷株式会社代表取締役社長)の開催の挨拶に続き、株式会社日本政策投資銀行産業調査本部の執行役員副本部長竹ヶ原啓介氏より、「地方創生SDGs金融の狙いと地域金融～ESG時代の地域金融の役割」と題して基調講演がありました。竹ヶ



価値創出委員会滝澤委員長による開会挨拶



日本政策投資銀行竹ヶ原執行役員による基調講演



事例発表① (株)みやもと 宮本社長



事例発表④ ホウユウ(株) 田中社長



事例発表⑥ (有)ケイズ 上村専務取締役



モデレータを交えてのパネルディスカッション

原執行役員からは、「非財務的価値」に着目したESG投資がメインストリーム化し、社会課題の解決を成長と同期させて「価値創造ストーリー」の提示が求められている中において、このストーリーを語る上で強力な「共通言語」といえるSDGsは、地域経済の主役である中堅・中小企業と地域金融機関の間にも当てはまる。地域金融機関は今まさに地方自治体と連携し、地域でSDGsに積極的に取り組む企業の「見える化」を進めているため、全国の印刷会社において地方創生・地域活性化に関わる事業を推進し、その情報開示が求められている、との説明がありました。

これに引き続き、日本印刷産業連合会所属の5団体から推薦のあった印刷会社6社による事例の発表がありました。地元栃木県出身の武将をモチーフにしたキャラクターを用いて、シビックプライドを醸成しようとする取り組み。山形県上山市の地域の主要産業であるワイン産業を活性化するために、商品企画から参画した事例。新潟県ならではの可愛いデザインをモチーフに様々なグッズに展開し、地域の魅力をアピールする活動。世界文化遺産に登録された古墳群にまつわるお土産の開発やワークショップの展開により、大阪府堺市の社会的課題を解決した事例。グラフィックデザイナー・アートディレクターとしての視点から、地元岐阜県郡上市の工芸品をグローバルブランド化した事例が発表されました。また、地元伊那市の地方創生総合戦略に掲げられる人材育成、雇用、地元就職促進、魅力ある職場作りなどの実現に向け官学と連携した取り組みは、「長野県SDGs推進企業登録証」の交付を受けたとの報告がありました。

次に、滝澤委員長をモデレータに迎え、発表企業6社でのパネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションでは、地方創生・地域活性化の事業に取り組むことになったきっかけ、関係者の巻き込み方、各種補助金制度の利用状況、事業収益性などについて突っ込んだ議論が行われました。

この事例発表会の動画はYouTubeでも視聴可能な形式で日本印刷産業連合会のWebサイトに掲載するとともに、掲載情報を「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」のメルマガに掲載し、同プラットフォームに登録している全国の地方自治体に配信しました。

1-2▶知的財産保護への取り組み

印刷産業は、事業活動の中で生じた知的財産については、積極的にその権利を取得し保護するとともに、他者の知的財産権を尊重することを共通理念として、業界を上げて知的財産の保護を図っています。印刷産業は、不適切な複製や未承認の引用など、知的財産権に関するトラブルが発生するリスクが比較的高い業種です。そのため、日本印刷産業連合会は、価値創出委員会の下に知的財産部会を設け、業界としての課題や議論すべきテーマの抽出および調査研究に取り組み、課題の解決に向けた提案活動を行っています。具体的な活動としては、特許庁や文化庁などの動向を常に注視し、著作権法や意匠権、不正競争防止法など、知的財産に関する法令の調査・研究を行っています。

知的財産権をめぐるトラブルや注意点に関する知的財産部会の議論の結果は、機関誌である「JPFI REPORT」に設けた「こんなときどうする?! 知的財産アドバイス」というコーナーに毎号連載し、印刷会社が知的財産権を尊重し適正管理に努めるために役立てています。2019年8月には、2015年4月以後に「JPFI REPORT」に掲載された上記コーナーの記事18事例とともに、知的財産権の基本的な事項をまとめた知財ガイドブック「印刷会社のための こんなときどうする?! 知的財産アドバイス Vol.2」を発行しました。



「JPFI REPORT」の「こんなときどうする?! 知的財産アドバイス」のコーナー



「印刷会社のための こんなときどうする?! 知的財産アドバイス Vol.2」

1-3▶印刷技術の進展と次世代人材育成

近代印刷産業は、150年の歴史の中で、その時代時代の最新技術を取り入れ、新たな価値を生み出してきました。また、印刷産業が常に新たな領域へチャレンジするため、次世代を担う人材の育成にも取り組んでいます。

デジタル印刷の現状

デジタル印刷機の技術的な進展はめざましいものがあり、オフセット印刷などの有版印刷の代替に留まらず、デジタルマーケティングなどデジタル印刷機を前提とした新しいビジネスモデルが登場するなど、その活用領域が広がっています。

日本印刷産業連合会では、国内の印刷産業における生産機としてのデジタル印刷活用の状況と今後の導入意識を把握し、活用度をさらに高めるための調査研究を目的として2010年度から毎年「印刷業界におけるデジタル印刷に関するアンケート調査」を実施し、その結果を公表しています。

2019年度の調査では、印刷業界10団体に所属する企業713社にアンケートを送付し、213社からの回答を得ました。

回答企業の84%(179社)で655台のデジタル印刷機を保有しており、これは1社平均で3.65台になります。回答企業の全体の売上に占めるデジタル印刷の割合は12.4%で、2016年9.7%、2017年10.6%、2018年11.2%と着実に増加しており、重要度が増しているのが感じられます。デジタル印刷での売上上位品目は、1位「事務用印刷」、2位「報告書、論文、議事録など」、3位「色校正」で、前年3位だった「チラシ」が8位と大きく後退しているのが特徴的です。また、成長率の高い品目では、1位「事務用印刷」、2位「DM」、3位「報告書、論文、議事録など」になっています。特に「DM」の将来性や成長率には期待が集まっており、これは日本だけでなく世界的な傾向のようです。デジタル印刷が従来方式より有利な点として、オペレーターが確保しやすい点を挙げる企業が多くありました。昨今の深刻な人手不足もあり、これを理由にデジタル印刷機を選択するケースが出てきそうな感じですが、日本印刷産業連合会では、今後も継続してデジタル印刷に関するアンケート調査を実施する予定です。

技能五輪国際大会への対応

日本印刷産業連合会では、中央職業能力開発協会(JAVADA)の依頼により、技能五輪国際大会(WorldSkills Competition)の「印刷」職種の日本代表選手候補者の選

考会の実施と、代表選手の強化訓練の支援を行っています。

技能五輪国際大会は、国際的に技能を競うことにより、参加国・地域の職業訓練の振興および技能水準の向上を図るとともに、青年技能者(満22歳以下、一部の職種は25歳以下)の国際交流と親善を目的とした大会で、1950年に始まり、現在は2年ごとに開催されています。「印刷」職種は2007年の第39回静岡大会から正式競技種目となり、同大会以降、日本は毎回参加し、優秀な成績を残してきました。

技能五輪国際大会に向けた強化訓練

日本印刷産業連合会では、代表選手決定後、過去の国際大会にエキスパートとして参加した指導者を中心に強化委員会を組織し、メダル獲得に向けて、選手強化のための訓練計画の作成、外部での訓練実施、技能レベルの確認と訓練方法の指示などを行い、選手強化にあたりました。



鈴木美術印刷(大阪)での訓練

亜細亜印刷(長野)での訓練

第45回 技能五輪国際大会(ロシア連邦・カザン)

2019年8月22日から27日まで、ロシア連邦・カザンで63の国・地域から1,354名の選手が参加し、56の職種で競技が行われました。日本からは42の職種に48名の選手が参加し、金:2、銀:3、銅:6で、金メダルの獲得数では、7位の成績でした(1位:中国、2位:ロシア、3位:韓国)。「印刷」職種には、15の国・地域が参加して競い、金メダルがオーストリアとロシア、銅メダルがスイスで、日本の湯地龍也選手(凸版印刷㈱)は、6位敢闘賞受賞という結果でした。配点が前回大会から大きく変更され、オフセット印刷60%→40%、デジタル印刷10%→30%とデジタル印刷の比率が高くなっています。この傾向は今後も続くことが予想され、選手強化のポイントとなりそうです。



開会式

オフセット印刷競技

次回大会に向けた活動

次回、第46回 技能五輪国際大会は2021年9月に中国・上海で開催が予定されており、2020年に「印刷」職種の日本代表選手候補者の選考会を開催します。それに先立ち、技能五輪の周知を目的としたイベントを2020年2月12日に東京都立中央・城北職業能力開発センターで開催しました。内容は、湯地龍也選手によるデモ、調色、見当操作の競技会などです。



調色競技

「印刷人育成オープンセミナー2019」の実施

日本印刷産業連合会は、学校法人日本プリンティングアカデミー(以下、JPA)との共催で、「印刷人育成オープンセミナー2019」を実施しました。これは、デジタル化の進展とともに印刷産業の新たな価値創出と次代を担うための事業承継を含めた経営戦略などの研究・考察を行い、経営幹部候補となるべき有望な人材の育成を行うことを目的として開催されました。

10月9日 1日目の講義Session1では、「デジタルプレス設備活用に向けたマーケティングとデジタルワークフローの構

築」というテーマで、JPA理事長の花井秀勝氏(フュージョン株式会社代表取締役会長)より、デジタルプレスを活かせるDM市場での特定顧客との関係を重視するマーケティングへの移行、店舗・Web・DMを融合させて展開した事例の紹介が、また、株式会社バリューマシニングインターナショナル取締役副社長宮本泰夫氏からは、顧客の視点でのデジタルプレス機の利活用によるソリューションビジネスについての事例の紹介がありました。続くSession2では、東京都中小企業振興公社の主任朝倉孝孝氏他から、「中小企業支援施策の戦略的有効活用」と題し、同公社の提供する様々な中小企業支援メニューとその特徴について説明がありました。

翌10月10日 2日目の講義Session3では、「『働き方改革』、次なるハードルへの準備はできていますか?」というテーマで、特定社会保険労務士の小島信一氏から「残業時間の上限規制」におけるポイントと、「同一労働同一賃金」に関して正社員とパート社員間の不合理な待遇の禁止に力点を置いて説明がありました。Session4では、日本印刷産業連合会知的財産部会の部会長萩原恒昭氏より、「エッ!『オリンピック』ってワード使っちゃダメなの!? 知財動向最新版」と題し、著作物利用のポイントから、オリンピック、パラリンピックのマーク、ロゴ、用語の使用、またそれらを想起させる文言や広告表現に関する注意点などについての説明がありました。

上記2日間での延べ参加者は115名となりました。



JPA 花井理事長



東京都中小企業振興公社 朝倉主任



特定社会保険労務士 小島信一氏



日印連知的財産部会 萩原部会長

2 適正で誠実な企業行動の推進

印刷産業が社会の期待に真摯に応えられる存在であるため、社会の動きを常に注視し、誠実に行動していくための体制作りを進めています。



2-1 情報セキュリティと個人情報保護

プライバシーマーク審査認定事業の推進

●プライバシーマーク制度

日本産業規格「JIS Q 15001 個人情報保護マネジメントシステム—要求事項」に適合したマネジメントシステム文書を構築し、個人情報について適切な保護措置を講ずる体制を整備している事業者などを認証して、その旨を示す“プライバシーマーク”を付与し、事業活動においてプライバシーマークの使用を認める制度です。

●日印産連プライバシーマーク審査センター

日本印刷産業連合会は、事業で個人情報を取り扱う機会が多い印刷産業において、個人情報への取り組みの重要性に鑑み、第三者認証であるプライバシーマーク制度の指定審査機関として、2007年8月に財団法人日本情報処理開発協会(当時)の指定を受け、プライバシーマーク審査認定事業を開始しました。2019年8月、一般財団法人日本情報経済社会推進協会(JIPDEC)による指定審査機関として6回目の更新審査を経て、認定事業の継続・拡大を図っています。



●審査の内容

▶形式審査(申請の受理審査)

提出された申請書類に不足がないか、記載内容に不備がないか、申請の資格があるなどの確認を行い、問題がない場合に申請を受理し、「形式審査結果報告書」を申請事業者に送付します。

▶文書審査(申請書類の審査)

受理後の申請書類のうち、個人情報保護マネジメントシステム(PMS)文書(内部規程・様式)の審査を行います。文書審査では、主に以下の2つの観点から審査を行います。
1. PMS文書の「JIS Q 15001」およびJIPDEC「プライバシーマーク付与適格性審査基準」への適合状況。

2. すべての従業者が「JIS Q 15001」A.3.3.5に適合した内部規程を遵守し、個人情報保護を実現するための具体的手順、手段などの文書化。

▶現地審査

文書審査終了後、申請事業者のPMSの運用状況を確認するため、申請者の個人情報を取り扱う事業所および工場などで実施します。以下の事項について確認・評価を行います。

1. 代表者へのトップインタビュー
2. PMS運用状況の確認
3. 現場での運用状況の確認
4. 文書審査結果の確認

▶付与適格性決定・通知

定例で月1回開催の審査委員会の審議を経て、プライバシーマーク付与の可否を決定します。結果は申請事業者およびJIPDECに通知するとともに、付与適格性決定を受けた事業者については速やかに日印産連プライバシーマーク審査センターのホームページで公表します。

●審査対象

日印産連の会員団体((一社)日本グラフィックサービス工業会を除く)の加盟企業などが対象です。

■会員団体別の認定事業者数

加盟団体	全印工連	工業会	フォーム	GCJ	シール	製本	合計
R2.3末	327	62	35	18	8	4	454

個人情報保護研究セミナーの開催

企業行動委員会 情報セキュリティ部会は、サイバー攻撃などの現状認識と諸対策に関する情報セキュリティ関連、および個人情報保護に関する国内外の最新取り組み状況や法整備などの新たな情報を、会員団体の加盟企業などにタ

イムリーに提供することを目的に、個人情報保護研究セミナーを開催しました。

2018年度第1回個人情報保護研究セミナー(2018年12月6日開催)

テーマ:「EU一般データ保護規則(GDPR)対策セミナー～世界的潮流となった個人情報保護の基本とあまり知られていない落とし穴～」

プログラムI: EU一般データ保護規則の概要

講師: 筑波大学 図書館情報メディア系 准教授 石井夏生利氏



講演する石井夏生利氏

プログラムII: GDPRへの実務的対応

講師: リップル法律事務所 弁護士(日本・ニューヨーク州)・弁理士 牧山嘉道氏



講演する牧山嘉道氏

2019年度第1回個人情報保護研究セミナー(2019年7月30日開催)

テーマ:「世界的規模で変貌する個人情報保護とサイバーセキュリティに向き合うために」



2019年度第1回個人情報保護研究セミナー会場風景

プログラムI: 個人情報保護の動向

講師: 情報セキュリティ大学院大学 学長補佐 情報セキュリティ研究科 教授 湯浅壘道氏



講演する湯浅壘道氏

プログラムII: 常に変化するサイバー脅威を直視しない企業の悲劇

講師: 株式会社サイバーディフェンス研究所 専務理事/上級分析官 名和利男氏



講演する名和利男氏

2-1▶情報セキュリティと個人情報保護

新JIS規格対応の内部監査員セミナーを全国開催

情報セキュリティ部会は、事業者における個人情報保護マネジメントシステム(PMS)の安全管理措置を改善に導く内部監査を有効に実施することを目的に、JIS Q 15001:2017(新JIS規格)に対応した内部監査員セミナーを東京会場で2回、エリア会場で10回開催しました。新JIS規格対応の新しいテキストおよび副教材を使用したこのセミナーには、73社172名の参加がありました。



主任審査員による講義風景



エリア会場での模擬監査の様子

新JIS準拠の書籍2点の頒布・活用促進

印刷産業における個人情報保護ガイドライン(2018年3月に新JIS規格準拠に改定)の解説書としての書籍『印刷産業のための個人情報保護の手引き(JIS Q 15001:2017附属書A(規定)準拠)』、および書籍『印刷産業のための個人情報保護の手引き 構築支援ツール参考資料集(JIS Q 15001:2017準拠)』について、事業者のPMS構築・運用に活用していただくことを目的に、日印産連ホームページを使っての広報や事業者訪問時における審査員による説明を継続して行いました。



印刷産業のための個人情報保護の手引き



印刷産業のための個人情報保護の手引き 構築支援ツール参考資料集

2-2▶多様性の尊重

日印産連 女性活躍推進部会 拡大版プログラム「WAIGAYA2019」を開催

企業行動委員会 女性活躍推進部会は、2018年度に3回開催された「WAIGAYA」でできたネットワークをより活発なものとするため、2019年度も引き続き「WAIGAYA 2019」を開催しました。前年度に引き続き会員団体の加盟企業から25名の女性リーダーが参加しました。

目的: (イ)印刷業界の女性リーダーのネットワークの基礎作り (ロ)女性リーダーの力(アイデア)で印刷業界を魅力ある業界にする (ハ)印刷業界で女性が活躍し、女性リーダーを継続的に輩出するための環境作り

開催日時: 2019年12月12日14:00~17:30(WAIGAYA) 18:00~20:00(交流会)

プログラム内容: 『WAIGAYA2019-女性起業家による講話と「自分でできる大人の化粧教室」体験-』大手化粧品会社を退職し、全国展開の「自分でできる化粧教室」事業を立ち上げた女性起業家による講演「私が会社員を辞め、起業した理由」(30分)を受講。主宰する化粧教室で実際に行われている基本レクチャー(30分)とメイクレッスン(90分)を体験。

講師: 株式会社Say

取締役ブランドマネージャー 浅香純子氏



基本レクチャーを行う浅香純子氏



4回目の「WAIGAYA」でより和やかに

第4回女性活躍推進セミナー「皆が働きやすい職場の実現に向けて～アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)をなくす方法!!」を開催

2018年5月9日開催の第3回女性活躍推進セミナー開催時のアンケート結果や、女性活躍推進部会の定例会議の議論の中で、女性活躍推進などの概論については理解が進んだので、次回セミナーではリアルなテーマを取り上げてほしいとの要望が多くありました。これを受けて女性活躍推進やダイバーシティ・マネジメントの阻害要因の一つとされるアンコンシャス・バイアスについて、事例などを用いて詳しく解説するセミナーを企画・開催しました。会員団体の加盟企業などから多くの男性を含む90名が参加しました。



セミナー会場風景

目的: 女性活躍推進およびダイバーシティ・マネジメントの促進

対象: 日印産連に加盟する印刷関連10団体会員企業の経営者および従業員他

開催日時: 2020年2月3日14:00~16:30

プログラム内容:

プログラムI: 「ダイバーシティ・マネジメント-“ガラスの天井”を打ち破る-」

講師: (一社)日本印刷産業連合会

副会長 櫻井 醜氏(トッパンフォームズ 相談役)

プログラムII: 「ダイバーシティの推進を阻むアンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)とは」

講師: 株式会社アパシオナータ

代表&コンサルタント パク・スックチャ氏



講演する櫻井醜氏



講演するパク・スックチャ氏

印刷産業は、地球環境に対して様々な影響を与える業界であるとの認識のもと、業界として自主行動計画を策定し、環境影響を低減するための活動を推進しています。

3-1 ▶ グリーンプリンティング(GP)認定制度

印刷工場に特化した環境マネジメントを効率的に進めるために、GP認定制度を展開し、個々の印刷工場において、より高いレベルで環境保全活動に努めています。

GP認定制度とは

日本の印刷産業界(印刷企業)の特徴は、①中小・零細規模の工場が多く、②都市型・地域密着型、③受注型・協業の生産体制です。都市型・地域密着型であるがゆえに環境対応の必要性は高いのですが、ISO14001認証取得などによる対応は人的・費用的面でなかなかできないのが実情でした。そこで日本印刷産業連合会は、業界団体主導で印刷の環境配慮自主基準を制定し、2006年にこの基準を達成した印刷工場、印刷製品、印刷資機材を認定するGP認定制度をスタートさせました。

して稼働しています。また、企業を認定する総合認定制度もスタートしました。

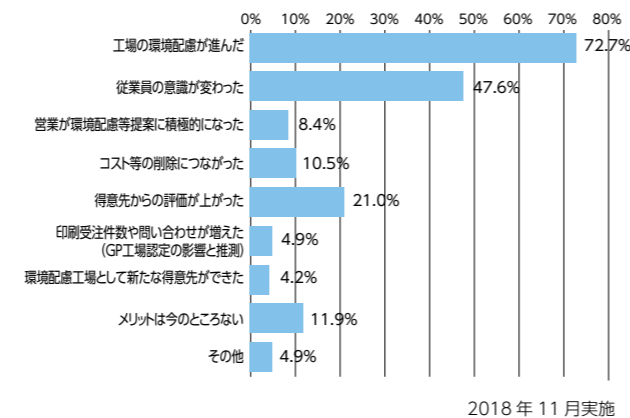
GP工場認定の仕組み



地域社会への貢献と地球環境保全

GP認定基準は法令や条例に対する遵法、地域住民への環境影響(悪臭、騒音、振動など)の未然防止、VOC発生などの大気汚染防止、廃棄物削減、リサイクル推進、地球温暖化防止など地球規模での環境対応と、それらを推進するマネジメントシステムで構成されています。また、近年では労働安全衛生の配慮、緊急時対応の基準を追加しています。

GP工場認定を取得したメリット



環境配慮した印刷工場を認定(GP工場認定制度)

GP工場認定制度は、認定基準に基づく客観的な審査によって、環境配慮している印刷工場を認定する制度です。審査・認定は、印刷会社出身の環境専門家であるGP認定審査員が申請書審査と現地審査を行い、その結果を第三者で構成するGP工場認定委員会で判定し認定します。更新審査は3年に1回。現在、全国429工場がGP認定工場と

GP認定工場のメリットと認定制度の特徴

オフセット印刷部門の認定基準である70項目のうち、必須項目を合わせて70%以上の達成で認定が受けられます。認定基準は工程別に具体的で、設備投資などは不要、基準達成のエビデンスが重視されます。申請工場には無料の説明会、GP認定審査員による現地指導・助言があり、中小・零細企業でも確実に基準を達成することができます。認定工場は廃棄物削減、VOC排出抑制、省エネ推進などによるコストダウンが期待でき、また、認定のための認定評価表兼チェックシートを利用することにより、事前評価、従業員教育、各工程の課題解決に役立てることができます。

印刷製品へのGPマークの表示(GP製品認定制度)

GP認定工場が製造し、用紙、インキ、製本・表面加工などの資材が環境配慮基準を満たした印刷製品には、GPマーク(環境ラベル)を表示することができます。GPマークは官公庁の発行物、CSRレポートから一般のパンフレットまで様々な印刷製品に表示され、その数は3万4,000製品、6億5,000万部に及んでいます。

また、GPマークを多く表示した印刷発注者にGP環境大

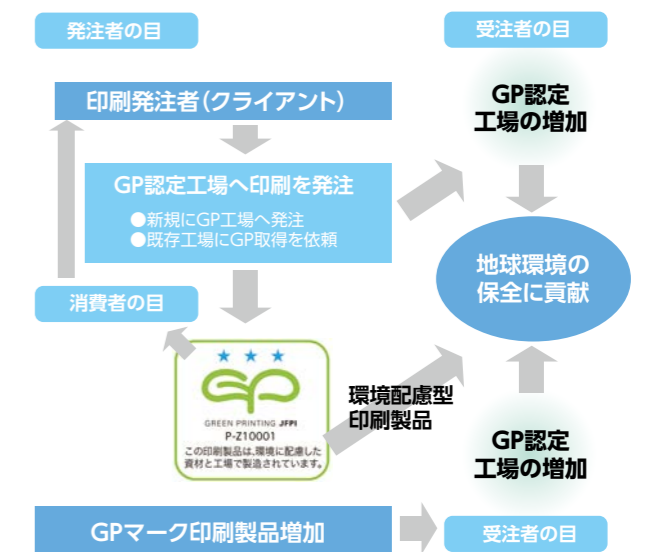
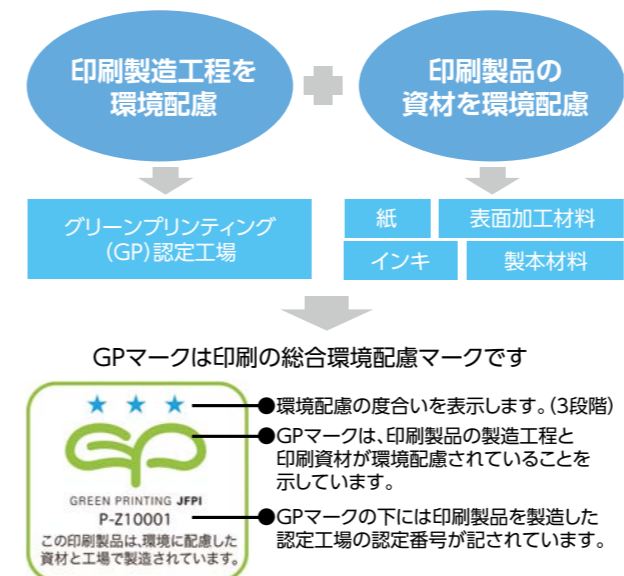
賞を授与する制度など、環境配慮した印刷製品のさらなる普及を図っています。

印刷工場が使用する資機材の環境配慮(GP資機材認定制度)

印刷工場が製造工程で使用する資機材の環境配慮および作業環境の向上を推進するため、GP資機材認定制度を実施しています。対象品目には、オフセット印刷工場で使用する洗浄剤、エッチ液、印刷版、現像機、セッター、デジタル印刷機、製本用接着剤、VOC警報器などがあります。2020年4月現在、42の資機材提供メーカーが参加、705製品が登録されています。このGP認定資機材製品は、日本印刷産業連合会ホームページで公開しております。

GP認定制度の普及と地球環境保全

GP認定制度の拡大は、そのまま地球環境保全に貢献します。印刷発注者が発注先にGP認定工場を指名していただければ、GP認定工場は大幅に増加します。また、GPマーク表示印刷製品を発注していただければ、製品自体の環境配慮とともに、消費者、発注者の目を通してその価値が評価されGP認定工場のさらなる拡大につながります。



3-2 ▶ 環境自主行動計画に基づく活動

SDGsの対応ならびに2015年12月に採択された「パリ協定」や、2019年6月の大阪サミットで採択された「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」により、今後より高いレベルの環境マネジメントと実績が求められる中で、印刷業界は環境自主行動計画のもとで、「低炭素社会実行計画(地球温暖化防止)」「循環型社会形成自主行動計画(産業廃棄物最終処分量削減)」「VOC排出抑制自主行動計画(大気汚染防止)」に取り組み、いずれも継続して目標を達成しています。

環境自主行動計画の状況

印刷産業は、多岐にわたる環境影響を与える業界であるとの認識のもと、環境負荷を低減するため環境自主行動計画を策定しています。

2018年度の取り組みと成果

低炭素社会実行計画

低炭素社会実行計画の指標であるCO₂排出量・原単位とも、2018年度の実績は従来の2020年度目標を大きく上回りました。このため、2019年度以降は毎年前年より原単位を1%改善することとした新たな目標を設定しました。

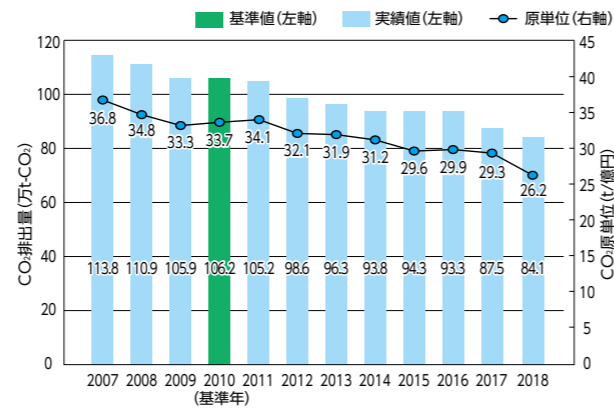
また、本計画への参加企業について、2018年度より新たに20社加わったことで、前年の92社から112社へと22%増加し、カバー率も1.2%から1.5%へ上昇しました。

CO₂の排出量は基準年度である2010年度の106.2万トンに対し、2018年度実績は84.1万トン(基準年度比:79.1%)となりました。(2020年度の新目標82.4万トン、2020年度の旧目標:97.5万トン)

これは設備更新による空調および動力関係の高効率化など、事業者の省エネ努力分が大きく寄与し、2017年度実績の87.5万トンをさらに下回る効果を上げました。

CO₂の排出量を原単位(排出量/売上高…単位:トン/億円)でみると、基準年度:33.7トン/億円に対し、2018年度実績は26.2トン/億円(基準年度比:77.7%)となり、原単位でも目標を達成しました。(2020年度の新目標:25.7トン/億円以下、2020年度の旧目標:30.5トン/億円以下)

■ 2010 年度(基準年)の固定排出係数に基づく CO₂ 排出量(※)



(※) 電力排出係数は基準年度固定で算定

循環型社会形成自主行動計画

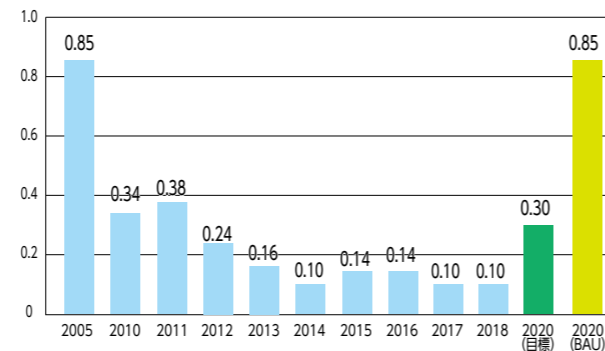
循環型社会形成自主行動計画は「産業廃棄物最終処分量」に加え、印刷産業独自の目標である「再資源化率」を活動の対象としています。

産業廃棄物最終処分量については、「2020年度を目標年度として年間0.30万トン以下にする」を目標としていますが、2018年度実績は年間0.10万トンと過去最低レベルと同じ最終処分量となり目標を達成しました。

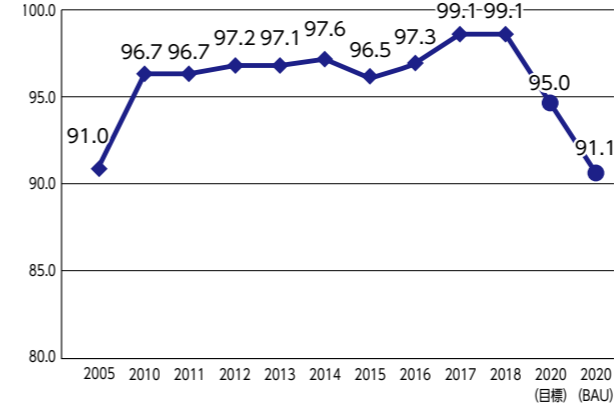
再資源化率については、「2020年度を目標年度として再資源化率を95.0%以上にする」を目標としていますが、2018年度実績は99.1%と、前年と同じ過去最高の再資源化率を記録し、目標を上回りました。

これは、5S活動や小集団活動などによるムダロスの削減と、きめ細かい分別回収の徹底などによる事業者の廃棄物削減に対する取り組みが大きく貢献しています。

1. 産業廃棄物最終処分量 (単位: 万トン)



2. 再資源化率 (=再資源化量 / 発生量で算出)



VOC排出抑制自主行動計画

VOC排出量の抑制は2000年度を基準年度とし、2010年度における排出量41%削減(68,100トン)を目標としていましたが、既に目標を達成しています。その後は2010年度実績を基準年(42,700トン)として、この水準を維持することを目標とし、2018年度のVOC排出量は23,600トン(削減率80%)で引き続き目標を達成しました。

■ VOC 使用量、排出量他実績 (単位: トン)

年度	2000	2010	2015	2016	2017	2018
使用量	204,400	178,400	143,100	157,500	152,500	142,300
排出量	115,500	42,700	24,500	26,800	22,800	23,600
削減率	-	63%	79%	77%	80%	80%
削減量	-	72,800	91,000	88,700	92,700	91,900
排出率	-	24%	17%	17%	15%	17%

容器法対応実施状況調査

容器包装リサイクル法は、印刷産業に密接に関連する法律であり、同法に対する意向・要望の集約、紙製容器包装・プラスチック製容器包装を中心とした基礎データの充実を図るべく、アンケート調査を実施しました。

2018年度の加盟印刷会社の再商品化義務量は、紙製容器478トン(前年比+9%)、その他プラスチック製容器6,752トン(前年比+22%)で、特定容器包装の製造量は、紙製容器52万トン(前年比+0.7%)、その他プラスチック製容器が27万トン(前年比+2.6%)と見込まれ、紙製容器、プラスチック製容器とも微増の製造量となりました。

3-3 ▶ 印刷産業環境優良工場表彰

印刷業界における環境問題解決への取り組みを促進するとともに、印刷関連工場の環境活動に対する社会からの理解を得ることを目的に、2002年度から「印刷産業環境優良工場表彰制度」を創設し、毎年表彰を実施してきました。

第18回の受賞工場の特徴としては、環境への取り組みに対するトップの意向を従業員に浸透させ、従業員の健康を守るための職場環境の改善、地球環境への対応も考慮した省エネ活動やVOC排出抑制などの取り組みが行われている他、地域社会に配慮した騒音・悪臭などの対策や、社会貢献としての工場見学の開催など、職場環境や地域社会への対応をベースとした経営を実践している会社が多く見受けられました。

◎第18回(2019年度)受賞工場

経済産業大臣賞	該当工場なし
経済産業省商務情報政策局長賞	株式会社研文社 尼崎工場
日本印刷産業連合会会長賞	光写真印刷株式会社 足利印刷株式会社 有限会社オザワ(※) 有限会社篠原紙工(※)
日本印刷産業連合会特別賞	オオゼキ写真印刷株式会社
日本印刷産業連合会奨励賞	株式会社ダイドー 本社工場 八潮化学株式会社 本社工場 マルワ工業株式会社 春日井本社工場 株式会社佐久印刷所 本社工場(※) 株式会社協和テック 本社工場(※) 株式会社文伸 BUN-SHIN FACTORY(※) タカラ印刷株式会社(※)

(※) 小規模事業所部門



商務情報政策局長賞を受賞した株式会社研文社 尼崎工場

3-4▶地球環境への高い配慮

環境に配慮した印刷物というのがどのようなものなのかは、まだ十分に知られておりません。日本印刷産業連合会はクライアント(印刷物発注企業)や一般消費者に対しての認知向上を目指した活動を行っています。

グリーンプリンティング(以下、GP)認定制度とは、日本印刷産業連合会が業界団体主導で制定した印刷の環境配慮自主基準を達成した印刷工場、印刷製品、印刷資機材を認定する制度であり、2006年度にスタートしました。

GP認定工場が製造し、用紙、インキ、製本・表面加工等の資材が環境配慮基準を満たした印刷製品には、GPマーク(環境ラベル)を表示することができます。GPマークは製造工程と印刷資材が環境配慮された総合的かつ高度な環境ラベルとして、官公庁の発行物、CSRレポートから一般のパンフレットまで様々な印刷製品に表示され、その数は3万4,000製品、6億5,000万部に及んでいます。

GP認定制度ならびにGPマークをお客様にもっと知ってもらうため、次の活動を行っています。

GP環境大賞、GPマーク普及大賞、GP資機材環境大賞

GP認定制度を社会に広く周知し、GPマーク表示の環境配慮型印刷製品の普及による地球環境保全の推進を図ることを目的に、グリーンプリンティング環境大賞(以下:GP環境大賞)を創設しました。地球環境への負荷低減に熱心に取り組

り組み、GP認定制度への深い理解と制度の積極的活用をしていただいている企業・団体に授与するものです。

また、印刷製品へのGPマークの表示を積極的にお客様に提案しているGP認定工場には、GPマーク普及大賞を授与しています。

2018年度からは環境に配慮したGP資機材認定製品の提供に貢献している資機材メーカーに対し、GP資機材環境大賞を授与しています。

グリーンプリンティングPR大使

GP認定制度のさらなる認知と普及を図るため、2016年に「グリーンプリンティングPR大使」を創設しました。初代PR大使には、映画『おくりびと』をはじめ数々のテレビ番組や映画の放送作家、脚本家として知られ、多くの連載や著作があるなど印刷産業とも関わりが深い小山薫堂氏に就任していただいております。毎年、GP環境大賞、GPマーク普及大賞など表彰式において表彰状の授与とトークショーを行っています。また、「印刷と私」エッセイ・作文コンテストの審査委員長もお願いしています。

2019グリーンプリンティング認定制度表彰式などの開催

2019年9月13日に2019印刷文化典式典内(会場:ホテルニューオータニ)において、2019グリーンプリンティング認定制度表彰式等式典を開催いたしました。本式典では、GP環境大賞、GPマーク普及大賞、GP資機材環境大賞の表彰

式および「印刷と私」エッセイ・作文コンテスト表彰式とともに、グリーンプリンティングPR大使の小山薫堂氏とゲストの鈴木杏樹氏による「印刷と私」をテーマにしたトークセッションを行いました。

また、式典終了後には各表彰者、小山薫堂氏も参加した記念パーティーを実施しています。

「印刷と私」エッセイ・作文コンテストの実施

GP認定制度の知名度の向上を図る活動の一環として、GP認定事務局が主催する形で「印刷と私」エッセイ・作文コンテストを2017年度から実施しています。これは「印刷」との関わり、思い出など、印刷にまつわるエッセイをコンテスト形式で募集することにより、社会における印刷の果たすべき役割を再認識するとともに、広く社会に印刷産業への理解を深めてもらうことを目指しています。小山薫堂氏を審査委員長にお迎えし、中学生以上の一般の部と小学生の部で募集しています。第3回目となる2019年度は応募が大幅に増え、943作品となりました。なお、毎年、受賞作品集を発行しており、表紙のイラストレーションを小池アミイゴ氏にお願いしています。

グリーン購入法と東京都グリーン購入ガイド

グリーン購入法特定調達品目「役務-印刷」の判断基準はGP認定制度が参考にされており、特に印刷会社が行うべき印刷各工程の環境配慮の措置はGP工場認定の必須項目と同様のものになっています。

また、2018年度から東京都の環境に配慮した物品および

役務を調達する際の基準である「東京都グリーン購入ガイド」の印刷物の環境配慮仕様(発注基準)のうち、水準2(いわゆる配慮事項)に「(一社)日本印刷産業連合会によるグリーンプリンティング認定制度による認定を受けた工場であること」が追加されています。これらは、関係省庁への積極的な情報提供によるものといえます。

「こどもエコクラブ」への参加

公益財団法人日本環境協会が子どもたちが地域で主体的に行う環境活動・学習を支援している『こどもエコクラブ』の活動(2,000クラブ、11万人以上の子どもたちが参加)に、GP認定事務局では2016年度から支援を行っています。

2019年3月24日に国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)において全国各地の『こどもエコクラブ』の子どもたちが集い、環境活動の紹介と相互の交流ならびに情報発信を広く行う『こどもエコクラブ全国フェスティバル2019』が開催されました。GP認定事務局では「企業・団体の環境への取り組みを学ぼう!」のコーナーに、印刷の仕組みと印刷の環境配慮について子どもたちに説明しました。

なお、2020年3月に予定していた『こどもエコクラブ全国フェスティバル2020』は新型コロナウイルスの影響で中止となりましたが、GP認定事務局の活動が掲載された冊子が配布されています。



3-4▶地球環境への高い配慮

◎GP環境大賞・準大賞

第1回(2015年度)	GP環境大賞/5社	株式会社ジェイアール東日本企画 株式会社タカラトミー (一社)日本自動車連盟 本田技研工業株式会社 株式会社丸井グループ
	GP環境準大賞/9社	イズミヤ千里丘店イズミヤ会 埼玉県北本市 岐阜県垂井町 千葉県千葉市 (一社)日本二輪車普及安全協会 (一財)脳神経疾患研究所 株式会社ホンダ四輪販売 北・東北 レインボー薬品株式会社 稚内信用金庫
第2回(2016年度)	GP環境大賞/4社	株式会社タカラトミー (一社)日本自動車連盟 株式会社丸井グループ 株式会社武蔵境自動車教習所
	GP環境準大賞/6社	株式会社ジェイアール東日本企画 東武鉄道株式会社 (一社)日本二輪車普及安全協会 株式会社ホンダカーズ静岡 レインボー薬品株式会社 稚内信用金庫
第3回(2017年度)	GP環境大賞/3社	株式会社タカラトミー 東武鉄道株式会社 株式会社武蔵境自動車教習所
	GP環境準大賞/6社	株式会社ジェイアール東日本企画 宗教学人「生長の家」(一社)日本自動車連盟 (一財)脳神経疾患研究所 株式会社丸井グループ レインボー薬品株式会社
第4回(2018年度)	GP環境大賞/4社	NTTタウンページ株式会社 大阪商工信用金庫 埼玉県議会 株式会社タカラトミー
	GP環境準大賞/5社	株式会社ジェイアール東日本企画 宗教学人「生長の家」 東京都 東武鉄道株式会社 レインボー薬品株式会社
第5回(2019年度)	GP環境大賞/4社	NTTタウンページ株式会社 大阪商工信用金庫 埼玉県議会 東京都
	GP環境準大賞/5社	株式会社ジェイアール東日本企画 東武鉄道株式会社 (一社)日本自動車連盟 株式会社ホンダコムテック 武蔵野大学

◎GPマーク普及大賞・準大賞

第1回(2016年度)	GPマーク普及大賞/1社	六三印刷株式会社
	GPマーク普及準大賞/2社	株式会社大川印刷 株式会社笠間製本印刷
第2回(2017年度)	GPマーク普及大賞/1社	六三印刷株式会社
	GPマーク普及準大賞/2社	株式会社笠間製本印刷 株式会社文伸
第3回(2018年度)	GPマーク普及大賞/1社	六三印刷株式会社
	GPマーク普及準大賞/4社	伊藤印刷株式会社 岩岡印刷工業株式会社 株式会社笠間製本印刷 株式会社文伸
第4回(2019年度)	GPマーク普及大賞/2社	NTT印刷株式会社 六三印刷株式会社
	GPマーク普及準大賞/5社	伊藤印刷株式会社 岩岡印刷工業株式会社 株式会社笠間製本印刷 株式会社太陽堂印刷所 株式会社文伸

◎GP資機材環境大賞

第1回(2018年度)	GP資機材環境大賞・資材部門/1社	富士フイルム株式会社
	GP資機材環境大賞・機材部門/1社	株式会社SCREENグラフィックソリューションズ
第2回(2019年度)	GP資機材環境大賞・資材部門/1社	株式会社日研化学研究所
	GP資機材環境大賞・機材部門/1社	富士ゼロックス株式会社

グリーンプリンティング(GP)認定制度を印刷産業のインフラに!

全国グラビア協同組合連合会 理事
GP推進部会・GP周知活動WG 座長 山下 雅稔

「GPの認定工場になるメリットは何ですか?」…何度となく私に投げかけられた質問です。私とGPとの関わりは、2008年に現在のGP推進部会の前進であるグリーン購入検討会の委員を仰せつかったのが始まりです。当時は、オフセット部門の基準改訂が議題となることが多く、GP認定制度すらよく理解していない上に、グラビア以外の他部門の認定基準を議論する毎月2時間の委員会は、GPの知識とともに私に忍耐力を養わせてくれました。

私がGP委員になった2008年当時のGP認定工場数は約120、その後は新規認定工場数が伸び悩む年度が続いていました。せっかくGP工場に認定され名刺にGPマークを入れても「このマークは何ですか?」と、印刷業界以外でGPマークを知っている人は誰一人いませんでした。そこで、GP認定制度の認知度を高めるために2011年に「GP周知活動WG(ワーキンググループ)」を立ち上げ、一般紙・誌に対してもアプローチを開始しました。

それに呼応するかのように日本印刷産業連合会は、2015年にGPマークを数多く表示した企業・団体を表彰する「GP環境大賞」をはじめ、次々にGP認定制度を活性化させる表彰制度を打ち出しました。

2016年には、映画『おくりびと』の脚本で知られる放送作家の小山薫堂氏をグリーンプリンティングPR大使に起用、大手メディアにもGPが取り上げられる契機となりました。2017年度、小山氏発案の「印刷と私」エッセイ・作文コンテストがスタート。2019年度には943作品もの応募があり、印刷があらゆる産業のインフラを担う誇り高い仕事であることを実感できる幸運を得ました。

GP周知活動を始めて9年。残念ながらまだまだ一般社会でのGPの認知度は低く、課題は多いです。しかし、2018年に実施したGP認定工場へのアンケート結果によれば、GPを取得したことで経営改善が進んだという嬉しいデータの数々が報告されました。

また、グリーンプリンティングPR大使である小山薫堂氏が携わる羽田空港の人気アートプロジェクト『旅する日本語展』のポストカードにも2018年度からGPマークが表示されるようになりました。耳慣れないけれど美しい日本語を小山薫堂氏がセレクトし、旅にまつわる小さな物語を執筆、イラストレーターの小池アミゴ氏が色鮮やかな絵画を描いたもの。その一つに『生い優る(おいまさる・成長するに連れて素晴らしくなる。「旅する日本語」より)』という言葉があります。GP認定制度が印刷産業のインフラとなり、「生い優る」存在となることを願いつつ筆を置きます。



4 社会に向けた情報受発信の強化

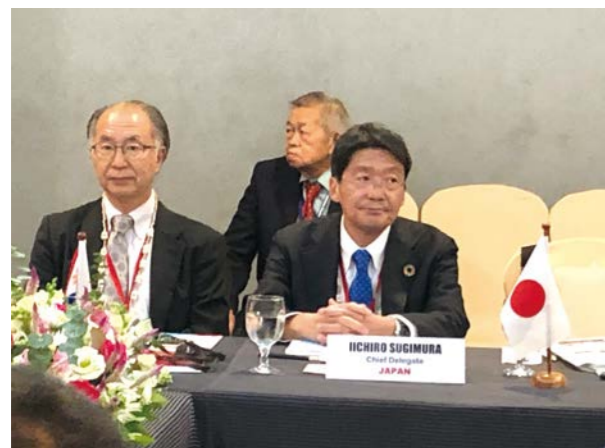
一般的にはあまり知られていない印刷産業の実態と社会貢献について広く認知していただくため、積極的に社会とのコミュニケーションを図っています。

4-1 ▶ 国際交流

印刷産業は世界中に広まっている産業で、各国それぞれ独自の発展を遂げています。このような中、各国の印刷連合会との交流を通じて相互に印刷業界発展の参考になる糸口の模索を進めています。

海外での印刷機器展とアジア・オセアニア印刷会議

2018年には日本最大で世界でも有数の印刷機器展であるIGAS 2018が東京国際展示場で開催され、日本印刷産業連合会とその構成10団体が印刷産業を広く紹介する展示ブースとしてJPEX(Japan Printing Exhibition)の名称で展示を行いました。またIGAS 2018に合わせてアジア・オセアニア印刷会議(FAPGA:Forum of Asia Pacific Graphic Arts)を東京で主催し、オーストラリア、中国をはじめとしてアジア太平洋地区各国の印刷連合会が一堂に会し、各国の印刷業界の状況に関する意見交換を行いました。アジア・オセアニア印刷会議は毎年場所を変えて、多くの場合、開催地となる国の印刷機器展と時期を合わせる形で行われています。2019年は10月にフィリピンで開催されたPACK PRINT PLAS PHILIPPINES 2019に合わせてフィリピンのマニラで開催され、日本印刷産業連合会は日本の代表として参加し、日本の印刷産業の最新事情を発表すると同時に、アジア各国の動向に関する情報を収集し、日本の印刷産業界に従事する方々に広く共有しております。



アジア・オセアニア印刷会議(FAPGA)2019(マニラ)での会議風景



FAPGAアジア・オセアニア印刷会議2019(マニラ)と併催されたPACK PRINT PLAS PHILIPPINESの開会式

世界印刷会議への参加

アジア・オセアニア印刷会議とは別に、毎年、世界印刷会議(WPCF:World Print & Communication Forum)が開催され、米国、欧州、中国、韓国、オーストラリア、香港、インドなどから印刷連合会の代表者が集まり、各国における印刷業界の状況や、印刷産業の活性化のためのプロモーション活動の紹介などが行われています。2019年6月には英国ロンドンで、また2020年1月にはインド最大の印刷機器展であるPAMEX2020に合わせてムンバイで開催され、日本の印刷産業の代表として参加いたしました。



世界印刷会議(WPCF)2019(ロンドン)でのセッション風景



世界印刷会議(WPCF)2020(ムンバイ)と併催されたPAMEX2020での光景

日本から世界に向けての情報発信

2020年1月にインドで行われた世界印刷会議(WPCF)においては、主催者であるAIFMP(All India Federation of Master Printers)からの要請を受けて、“Intelligent Manufacturing”というテーマで世界の最先端をいく日本のスマートファクトリーに関する講演を賛助会員の小森コーポレーションと共同で行いました。WPCFに参加していたインドやインドネシアといった国々では、今すぐにスマートファクトリー化を進めなければならない状況にはないが、日本ならびに欧米の先進国が現在経験している困難な状況は遠くない将来東南アジア各国にも降りかかってくる、ということは聴講者全員の共通認識であり、日本からの情報発信は参加者各国からの大きな反響を呼び、世界の印刷産業界における日本のプレゼンスを示しました。



世界印刷会議(WPCF)2020 主催のAIFMP代表によるスピーチ風景

主催コンクールに関する国際連携

日本印刷産業連合会では主催する数々のコンクールに関連して、海外の印刷連合会や業界団体と提携して相互に印刷業界の活性化、発展につなげています。オーストラリアの印刷連合会であるPIAA(Printing Industries Association of Australia)が主催するNPA(National Print Award)においては2019年8月に審査員として参加し、カレンダー分野の審査、優秀作品の選定、ならびに特別賞の授与を行いました。またドイツのグレゴール・カレンダー・アワード委員会との間では、毎年日双方のカレンダーコンクールでの優秀作品を送り合い、相手国のカレンダーをそれぞれの視点から再評価し、相互に表彰し合い、2020年で45回目を迎えました。2020年1月にドイツのシュツットガルトで行われたグレゴール・カレンダー・アワードの表彰式に参加し、日本の受賞者を代表して日本からの入選作品に対して授与された賞状を受け取る一方で、2月にはドイツから送られた作品を日本で審査し、優秀作品に対してJapan Awardを授与しました。



NPA2019(シドニー)での表彰式風景



グレゴール・カレンダー・アワード2020(シュツットガルト)での表彰式風景

4-2▶印刷製品のコンクールの主催

印刷が、どのような分野でどのように社会の発展に貢献しているかを理解していただく広報活動の一環として、日本印刷産業連合会は4つのコンクールを毎年主催しています。展示会、表彰式に加えてホームページで各コンクールの告知および結果発表を行っています。

ジャパン パッケージング コンペティション

主催: 日本印刷産業連合会 **後援:** 経済産業省、(公社)日本パッケージデザイン協会、(公社)日本包装技術協会、(公社)日本マーケティング協会、(一社)日本プロモーション・マーケティング協会、日本百貨店協会
協賛: ジャパンムック株式会社、平和紙業株式会社



ジャパン パッケージング コンペティション表彰式

第58回 2019 ジャパン パッケージング コンペティション (Japan Packaging Competition 2019)

賞名	作品名	発行者	出品者
経済産業大臣賞	Google Home Knitting PKG	グーグル合同会社	大日本印刷株式会社
	上善如水 純米吟醸 ペットボトル 300ml	白瀧酒造株式会社	大日本印刷株式会社
経済産業省商務情報政策局長賞	長崎柑橘「ゆうこう」シリーズ (サイダー、ゼリー、アイスミルク、果汁 100%)	長崎地域雇用創造協議会 株式会社Attic coffee and dining 社会福祉法人ゆうわ会ワークステーションすばる 有限会社あじさい 株式会社すみや	アートワン株式会社
	ポッキー・ブルミエールクラス	江崎グリコ株式会社	大日本印刷株式会社
	ポール & ジョー リップスティック ケース N	株式会社アルピオン	株式会社アルピオン

第59回 2020 ジャパン パッケージング コンペティション (Japan Packaging Competition 2020)

賞名	作品名	発行者	出品者
経済産業大臣賞	コスメデコルテ AQ クリーム アブソリュート X	株式会社コーセー	株式会社コーセー
	アタック ZERO ワンハンドタイプ	花王株式会社	花王株式会社
経済産業省商務情報政策局長賞	IGNIS スキン エデン	株式会社アルピオン	株式会社アルピオン
	EMOTT	三菱鉛筆株式会社	三菱鉛筆株式会社
	TOUCH-AND-GO COFFEE	サントリー	サントリー

造本装幀コンクール

主催: (一社)日本書籍出版協会、日本印刷産業連合会
後援: 文部科学省、経済産業省、東京都、(公社)日本図書館協会、(公社)読書推進運動競技会、(一社)出版文化国際交流会、(一財)出版文化産業振興財団



造本装幀コンクール 記念パーティ

第52回 造本装幀コンクール (Japan Book Design Award 2018)

賞名	書名	出版社	装幀者	印刷会社	製本会社
文部科学大臣賞	『池内晶子 Akiko Ikeuchi』	gallery21yo-j	小池俊起	株式会社サンエムカラー	有限会社藤原紙工
経済産業大臣賞	『村上善男—玄々とした精神の深みに』	玄風舎、東京大学総合研究博物館「インターメディアテック」	西野嘉章+山本浩貴	秋田活版印刷株式会社	有限会社藤原紙工
東京都知事賞	『はな子のいる風景 イメージを(ひっ)くりかえす』	武蔵野市立吉祥寺美術館	尾中俊介 (Calamari Inc.)	大村印刷株式会社	大村印刷株式会社

第53回 造本装幀コンクール (Japan Book Design Award 2019)

賞名	書名	出版社	装幀者	印刷会社	製本会社
文部科学大臣賞	『僕らのネクロマンシー』	NUMABOOKS	藤田裕美	NISSHA株式会社	NISSHA株式会社 株式会社渋谷文泉閣
経済産業大臣賞	『ちのかたち 建築的思考のプロトタイプとその応用』	TOTO(株)文化推進グループ TOTO出版	刈谷悠三+ 角田奈央/neucitora	図書印刷株式会社	図書印刷株式会社
東京都知事賞	『Close Your Ears』	えほんやるすばんぱん するかいしゃ	サイトラヒデユキ	中野活版印刷店	有限会社美鷲堂

全国カタログ展

主催: 日本印刷産業連合会、フジサンケイビジネスアイ
後援: 経済産業省、文部科学省、(独)国立印刷局、日本商工会議所、日本製紙連合会、(公社)日本マーケティング協会、全国中小企業団体中央会



全国カレンダー展・全国カタログ展 合同表彰式

第60回 全国カタログ展 (Catalog 2019)

	賞名	作品名	発行者	出品者
図録部門	経済産業大臣賞	武蔵野美術大学コレクション 博物館—デジタルアーカイブの試み—	株式会社朝倉書店	株式会社山田写真製版所
	文部科学大臣賞	天文学と印刷	凸版印刷株式会社 印刷博物館	凸版印刷株式会社
	経済産業省商務情報政策局長賞	特別展「北斎 だるせん!」	名古屋博物館 中京テレビ放送	野崎印刷紙業株式会社
カタログ部門	経済産業大臣賞	What instax is ...	FUJIFILM デザインセンター CLAY スタジオ	凸版印刷株式会社
	文部科学大臣賞	TSUNAGU兵庫ボルト株式会社 100年史	兵庫ボルト株式会社	凸版印刷株式会社
	経済産業省商務情報政策局長賞	—双 ISSOUカタログ VOL6	株式会社—双	株式会社山田写真製版所

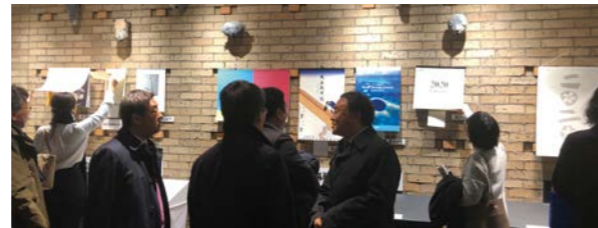
第61回 全国カタログ展 (Catalog 2020)

	賞名	作品名	発行者	出品者
図録部門	経済産業大臣賞	「大竹伸朗 ビル景 1978-2019」図録	HeHe	光村印刷株式会社
	文部科学大臣賞	顔真卿 王羲之を超えた名筆展 図録	株式会社毎日新聞	日本写真印刷コミュニケーションズ株式会社
	経済産業省商務情報政策局長賞	驚異と怪異 想像界の生きものたち	株式会社河出書房新社	株式会社河出書房新社
カタログ部門	経済産業大臣賞	スマホの友	ソフトバンク株式会社	凸版印刷株式会社
	文部科学大臣賞	Graphic Art & Design Annual 2018	(公財)DNP文化振興財団	大日本印刷株式会社
	経済産業省商務情報政策局長賞	Appearance of GITAKU	技拓株式会社	株式会社山田写真製版所

4-2 ▶ 印刷製品のコンクールの主催

全国カレンダー展

主催:日本印刷産業連合会、フジサンケイビジネスアイ
後援:経済産業省、文部科学省、(独)国立印刷局、日本商工会議所、日本製紙連合会、(公社)日本マーケティング協会、全国中小企業団体中央会
協賛:全国カレンダー出版協同組合連合会



全国カレンダー展 展示風景

第70回 全国カレンダー展(Calendar 2019)

	賞名	作品名	発行者	出品者
第1部門	内閣総理大臣賞	Lovely Friends	パナソニックホームズ株式会社	凸版印刷株式会社
	経済産業大臣賞	TAPESTRY OF LIGHT 光耀	三菱電機株式会社	凸版印刷株式会社
	文部科学大臣賞	World Heritage Journey 世界遺産を訪ねて	キャノンマーケティングジャパン株式会社	凸版印刷株式会社
	経済産業省商務情報政策局長賞	BRIDGESTONE壁掛けカレンダー	株式会社ブリヂストン	凸版印刷株式会社
第2部門	経済産業大臣賞	フレデリック・フランソワ・ショパンの生涯と筆跡カレンダー	ミサワホーム株式会社	大日本印刷株式会社
	文部科学大臣賞	地球-SUMAI	パナソニックホームズ エコソリューションズ株式会社	凸版印刷株式会社
	経済産業省商務情報政策局長賞	2019年Hondaモーターズスポーツカレンダー	株式会社ホンダコムテック	凸版印刷株式会社
第3部門	経済産業大臣賞	気仙沼漁師カレンダー2019	気仙沼つばき会	株式会社バンブーカット
	文部科学大臣賞	『ジョジョの奇妙な冒険』日めくりカレンダー	株式会社集英社	図書印刷株式会社
	経済産業省商務情報政策局長賞	東日本大震災復興支援 チャリティ カレンダー2019 光の様式	株式会社大伸社 みちのく応援団	株式会社大伸社 みちのく応援団
		Aquirax Uno + Shin Sobue Hardwritten Calendar	株式会社アートプリントジャパン	株式会社アートプリントジャパン

※内閣総理大臣賞は5年ごとに授与

第71回 全国カレンダー展(Calendar 2020)

	賞名	作品名	発行者	出品者
第1部門	経済産業大臣賞	A TAPESTRY OF LIGHT 光耀	三菱電機株式会社	凸版印刷株式会社
	文部科学大臣賞	棟方志功カレンダー	株式会社新学社	大日本印刷株式会社
	経済産業省商務情報政策局長賞	HAKARU	株式会社タツノ	図書印刷株式会社
第2部門	経済産業大臣賞	ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンの生涯と筆跡カレンダー	ミサワホーム株式会社	大日本印刷株式会社
	文部科学大臣賞	2020年オリンパス/WWFカレンダー	オリンパス株式会社	凸版印刷株式会社
	経済産業省商務情報政策局長賞	大工歳時記 一道具たちの四季	有限会社堀間組	株式会社社陵印刷
第3部門	経済産業大臣賞	camouCollage 2020 カレンダー	camouCollage	大日本印刷株式会社
	文部科学大臣賞	開館30周年記念2020年横浜美術館コレクションカレンダー	(公財)横浜市芸術文化振興財団	相澤事務所株式会社
	経済産業省商務情報政策局長賞	Canon Calendar 2020 World Heritage Journey世界遺産を訪ねて	キャノンマーケティングジャパン株式会社	凸版印刷株式会社
エグゼクティブ玉			株式会社創日社	凸版印刷株式会社

外部団体と連携しての主催コンクールの認知度・付加価値向上のための活動

世界で最も美しい本コンクール

「世界で最も美しい本コンクール」は1963年より開催している書籍に関する世界で最も権威のあるコンクールの一つです。審査員がドイツのライプツヒに集まり、世界中から集まった書籍をデザインと製作における観点から評価し、書籍の最高峰を選出します。例年、応募作品は30以上の国々から合計600点以上を数え、その中から最高賞である「金の活字賞」1点、金賞1点、銀賞2点、銅賞5点、荣誉賞5点の計

14点が選ばれます。日本国内の「造本装幀コンクール」で入賞した作品は自動的に「世界で最も美しい本コンクール」にエントリーされます。受賞作品を含むすべての出品作品は、ライプツヒ・ブックフェアで展示され、多くの人々の目に触れる機会に恵まれます。



世界で最も美しい本コンクール 審査風景

World Book Design (世界のブックデザイン)

「造本装幀コンクール」にて入賞した作品に関しましては、「世界で最も美しい本コンクール」に出品されるほか、毎年印刷博物館P&Pギャラリーにて開催されるWorld Book Design(世界のブックデザイン/主催:凸版印刷株式会社、一般財団法人印刷博物館)にて、ライブツィヒ・ブックフェアで公開展示された「世界で最も美しい本コンクール」の入選図書とともに展示されます。その他、ドイツ、オランダ、スイス、オーストリア、カナダ、中国のコンクールで優秀作品として表彰された美しい書籍約170点も併せて展示されます。第53回造本装幀コンクールで文部科学大臣賞に輝いた「僕らのネクロマンシー」は「世界で最も美しい本コンクール」にて銅賞を受賞し、凱旋帰国を果たしました。



World Book Design ポスター



装幀者 藤田裕美
印刷/NISSHA(株)
製本/NISSHA(株)・株式会社文泉閣

現代日本のパッケージ展/JAPAN PACK

ジャパン パッケージング コンペティションで入賞した作品は、毎年印刷博物館P&Pギャラリーにて開催される展覧会「現代日本のパッケージ」(主催:凸版印刷株式会社/一般財団法人印刷博物館)にて展示されます。同展覧会では日本で開催されている以下の3つの大規模なパッケージコンクールの受賞作品を一堂に会して展示し、現代のパッケージデザインや機能の進化を紹介しています。現代日本のパッケージを様々な視点から俯瞰することができます。

●ジャパン パッケージング コンペティション (主催:一般社団法人日本印刷産業連合会)

- 日本パッケージデザイン大賞(主催:公益社団法人日本パッケージデザイン協会)
- 日本パッケージングコンテスト (主催:公益社団法人日本包装技術協会)

また隔年で開催される JAPAN PACK (主催:一般社団法人 日本包装機械工業会)においても会場に特設コーナーが設けられ、ジャパン パッケージング コンペティションの入賞作品が展示され、広く認知される機会を設けております。



「現代日本のパッケージ 2019」 展示会場



JAPAN PACK 2019: JPC 入賞作品特設展示会場

以上の通り、日本印刷産業連合会では、世界各国の印刷業界団体との国際交流を通して、日本の印刷産業の代表として日本からの最新技術を紹介して効率化によって世界の印刷産業全体の生産性を上げることを提唱し、また日本の環境問題に対する取り組みの事例を紹介することによって、地球温暖化抑制に対するリーダーシップを今後も担ってまいります。日本国内では各種コンクールを主催することによって、クリエイターの育成なども含めて印刷産業全体の活性化を目指しております。今後も印刷産業が社会に対して果たすべき役割を明確にして、印刷産業の実態と社会貢献について広く認知していただくため、社会とのコミュニケーションを図ってまいります。

4-3 ▶ 印刷産業の社会貢献活動

日本印刷産業連合会の会員10団体とその加盟企業各社は、社会が直面している様々な課題を解決する社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

難病への支援

日本印刷産業連合会(会長 金子眞吾*)とフジサンケイビジネスアイ(社長 鶴田東洋彦)が共同で開催した「第71回全国カレンダー展」でのチャリティーカレンダーの販売金15.1万円と日本印刷産業連合会からの寄付金を合わせた50万円を、国内外の心臓病の子どもを救う「明美ちゃん基金」(産経新聞社設立)に寄付しました。

* : 2020年3月12日当時

寄付金は2020年3月12日に産経新聞社本社(東京都千代田区大手町1-7-2)にて金子眞吾会長から産経新聞社の飯塚浩彦社長に手渡されました。

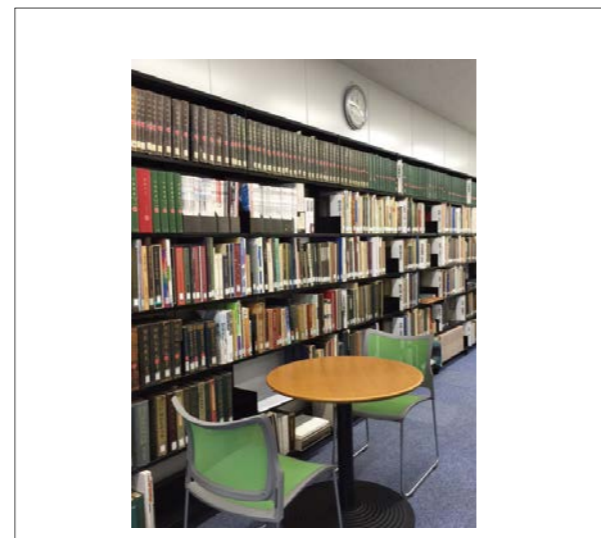


日本印刷産業連合会 金子会長と産経新聞社 飯塚社長

印刷図書館の運営

一般財団法人印刷図書館は昭和22年に印刷技術の向上発展を図るために、主に海外の印刷技術に関する専門図書文献を収集・公開する目的で設立されました。

現在では、国内の最新技術に関する図書文献を中心に、印刷産業および関連産業に関する資料などを、業界だけでなく広く一般にも公開することで、印刷および関連業界の向上発展に努めています。



ご案内

開館時間 / 午前9時30分～午後5時

(ただし12時から1時まででは閉館)

休館日 / 土曜日、日曜日、祝日、年末年始など

利用料金 / 維持会員は無料 維持会員以外の方

600円/1回 コピーサービス有り(有料)

住所 / 〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8

日本印刷会館3F

電話番号 / 03-3551-0506

FAX / 03-3551-0509

http://www.print-lib.or.jp

4-4 ▶ 日本印刷産業連合会が発行する刊行物



印刷産業のための 個人情報保護の手引き 構築支援ツール参考資料集

【JIS Q 15001:2017準拠】【CD付き】 2018年11月15日発行 / A4判202頁 / 会員・賛助会員4,000円、一般6,000円(消費税・送料別)

本書では、PMS構築事例として従業者が100名程の印刷事業者を想定し、PMSを構築する場合に参考となる規程および様式を掲載しています。また、2018年8月発行の「印刷産業のための個人情報保護の手引き(JIS Q 15001:2017附属書A(規定)準拠)」に基づく規程、様式および様式記入例としても活用いただける構成となっています。是非、貴社の個人情報保護マネジメントシステムの構築や改善の機会にお役立てください。



印刷産業のための 個人情報保護の手引き

【JIS Q 15001:2017附属書A(規定)準拠】 2018年8月発行 / A4判108頁 / 会員・賛助会員2,000円、一般4,000円(消費税・送料別)
—印刷産業における個人情報保護ガイドライン(JIS Q 15001:2017附属書A(規定)準拠)解説書—

この度、2018年3月1日改訂の「印刷産業における個人情報保護ガイドライン(JIS Q 15001:2017附属書A(規定)準拠)」の解説書として、法改正や規格改定に対応することはもとより、印刷事業者にとって必要な解釈や求められる具体的安全管理措置を補完し業界全体の信頼向上に寄与することを目的に「印刷産業のための個人情報保護の手引き(JIS Q 15001:2017附属書A(規定)準拠)」を発行いたしました。本書では項文の内容に関する印刷事業者向けの平易な解説を示す他、印刷事業者にとって留意すべき具体的事例や、組織体制、作業手順、安全管理措置に関する具体例やサンプルを豊富に取り上げました。これからPMSに取り組もうとする印刷事業者のみならず、導入企業でのPMSの維持・運用・社内教育にご活用いただける内容となっております。是非、貴社の個人情報保護のスパイラルアップのためにお役立てください。



印刷会社のための こんなときどうする?! 知的財産アドバイス Vol.2

2019年8月31日発行 / A4判72頁 / 会員・賛助会員2,000円、一般3,000円(消費税・送料別)

本書は、印刷業務およびその周辺業務に携わる方々のための知的財産権に関するガイドブックとして2015年4月に発行された「こんなときどうする?! 知的財産アドバイス」シリーズの第2巻です。第1部では、第1巻発行以後に改正された法令なども網羅し、知的財産権の全体像と基本的事項を整理して解説しています。第2部では、営業や制作の現場で実際に問題となるような18のケースをQ(設問)&A(回答)形式で取り上げています。それぞれのケースについて、「解説と注意点」では基本的な考え方や知識、A(回答)の根拠となる法律や判例などの解説、さらには実務で役立つと思われる周辺情報を、「アドバイス」ではそのケースについての実務上の対応のヒントなどが盛り込まれています。18のケースの中には、東京オリンピック・パラリンピック関連表記や、保護期間が20年延長された著作権について注意すべき事項なども掲載されています。実際の業務上で生じ得る知的財産権に関するトラブルの未然防止や問題解決の一助としてご活用ください。



マーケティング・データ・ブック 2020 Vol.18

2020年2月29日発行 / A4判90頁 / 会員・賛助会員4,762円、一般4,762円(消費税・送料別)

本書は、経済産業省の「工業統計」や「生産動態統計」「商業販売統計」、また財務省、日銀、その他団体などが公表する各種統計調査をもとに印刷産業および印刷産業に関連する資材・機材産業、印刷産業の需要先に関わる市場動向をとりまとめ毎年発行する年報です。前半は、印刷産業、資機材、主要得意先に関わる動向をコメントを交えて表とグラフで掲載。後半は各動向の主要な数値データを掲載しています。印刷産業の全体像の把握などにご活用ください。

*以上で紹介した刊行物は日印産連ホームページからご購入いただけます。

□ 日本印刷会館

日本印刷会館は、印刷産業の情報発信センターとして有益に機能するとともに、セミナー・教育訓練の場として業界の人材育成に貢献しています。



会議室のご案内

ご利用時間／午前9時～午後9時 土曜日・日曜日・祝日の貸出しも行います。2階の会議室は、可動式の間仕切りを移動させることにより大人数のセミナー会場としてもご利用いただけます。

お申し込み方法／当会館のホームページで利用状況を確認の後、印刷会館事務所にお電話ください。

設備／最新式の高性能プロジェクター(2台)、大型スクリーン(100インチ・120インチ)、放送設備、PC、インターネット接続、演台、マイク、ホワイトボードなど各種備品も用意

住所／〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8

電話／03-3551-5011

URL／<http://www.jfpi.or.jp/kaikan>

アクセス

■有楽町線 新富町駅から徒歩約4分。

明石町(月島駅寄り)方面改札口を利用。5番出口から左手の交番沿いに進み、最初の信号を左折。

■日比谷線 八丁堀駅改札から徒歩約7分・京葉線 八丁堀駅改札から徒歩約9分。

日比谷線 八丁堀駅は桜川公園(築地駅寄り)方面改札口を利用。京葉線 八丁堀駅は改札を出て、東京メトロ日比谷線方向に進む。A3出口から右手に進み、入船二丁目の信号を右折。

■日比谷線 築地駅から徒歩約7分。入船橋(八丁堀駅寄り)方面改札口を利用。4番出口からまっすぐ進み、入船二丁目の信号を左折。3番出口からは横断歩道を渡ってから、まっすぐ進む。

■東京駅から

JR山手線・外回り有楽町駅下車。有楽町線乗り換え。

アクセスマップ



■印刷工業会
大手および中堅印刷会社等で組織する団体で、加盟会社の出荷品は出版印刷・教科書印刷・商業印刷・証券・紙器・軟包材・建材・エレクトロニクス部品および情報関連等、多岐にわたっている。
所在地：〒104-0041 東京都中央区新富 1-16-8 日本印刷会館 3F
TEL: 03(3551)7111 FAX: 03(3551)7155
会員：91社



■日本フォーム印刷工業連合会
コンピュータの入出力に関連する諸帳票および応用製品を製造販売する印刷会社で組織している全国団体である。
所在地：〒104-0041 東京都中央区新富 1-16-8 日本印刷会館内
TEL: 03(3551)8615 FAX: 03(3555)8466
会員：7工業会(110社)



■全日本製本工業組合連合会
製本業の全国団体として、印刷後加工の書籍・雑誌・事務用品類製本等を出荷する製本会社によって組織されている。
所在地：〒173-0012 東京都板橋区大和町 28-11
TEL: 03(5248)2371 FAX: 03(5248)2455
会員：11工業組合(703社)



■全日本シール印刷協同組合連合会
シール印刷業の全国団体として、表示・封緘・販促・接着等、各用途のシール・ラベル印刷物を出荷する印刷会社によって組織されている。
所在地：〒110-0015 東京都台東区東上野 3-25-1 Kiビル
TEL: 03(5812)5717 FAX: 03(5812)5883
会員：10協同組合(504社)



■全日本スクリーン・デジタル印刷協同組合連合会
スクリーン印刷の全国団体として、商業・生活・工業等、各分野のスクリーン印刷物を出荷する印刷会社によって組織されている。
所在地：〒101-0031 東京都千代田区神保町2-34-2 神保町ビル101号室
TEL: 03(6265)4818 FAX: 03(6265)4819
会員：8協同組合(149社)



■全日本印刷工業組合連合会
一般印刷業の中小印刷会社で組織する全国団体で、出荷品は出版・商業・事務用など多様な印刷物を手がけ、会員10団体のなかでも加盟会社数が多い。
所在地：〒104-0041 東京都中央区新富 1-16-8 日本印刷会館4F
TEL: 03(3552)4571 FAX: 03(3552)7727
会員：47都道府県印刷工業組合(4,302社)



■一般社団法人日本グラフィックサービス工業会(ジャグラ)
文字・画像を主体とする印刷物を生産する印刷業・製版業の全国団体。グラフィックサービスの特性を生かした印刷物を手がけている。
所在地：〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 7-16 ニッケイビル 7F
TEL: 03(3667)2271 FAX: 03(3661)9006
会員：909社(41都道府県に支部あり)



■日本グラフィックコミュニケーションズ工業組合連合会(GCI)
グラフィックコミュニケーションズ(印刷物の前工程全般の制作もしくは印刷原版制作をする製版業、またはDTP技法を用いて、主に情報伝達を目的とした各種媒体・コンテンツの制作業)の中小企業者の全国団体。
所在地：〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-10-3 スリースタービル 4F
TEL: 03(3265)2714 FAX: 03(3265)2718
会員：8工業組合(175社)



■全国グラビア協同組合連合会
グラビア印刷業の全国団体として、主として軟包装資材印刷加工物等を出荷するグラビアを主力とする印刷会社によって組織されている。
所在地：〒130-0002 東京都墨田区業平 1-21-9 あさひ 墨田ビル2F
TEL: 03(3623)4046 FAX: 03(3622)1814
会員：8協同組合(164社)



■全日本光沢化工紙協同組合連合会
光沢加工業の全国団体として、主に印刷後加工のコーティング・プレス・ラミネート等を出荷する光沢加工会社によって組織されている。
所在地：〒170-0002 東京都豊島区巢鴨 3-3-13 コア・ハナミ201号
TEL: 03(3576)5600 FAX: 03(3576)5656
会員：3協同組合(90社)

※各団体の会員数は2020年4月1日現在の数字です。